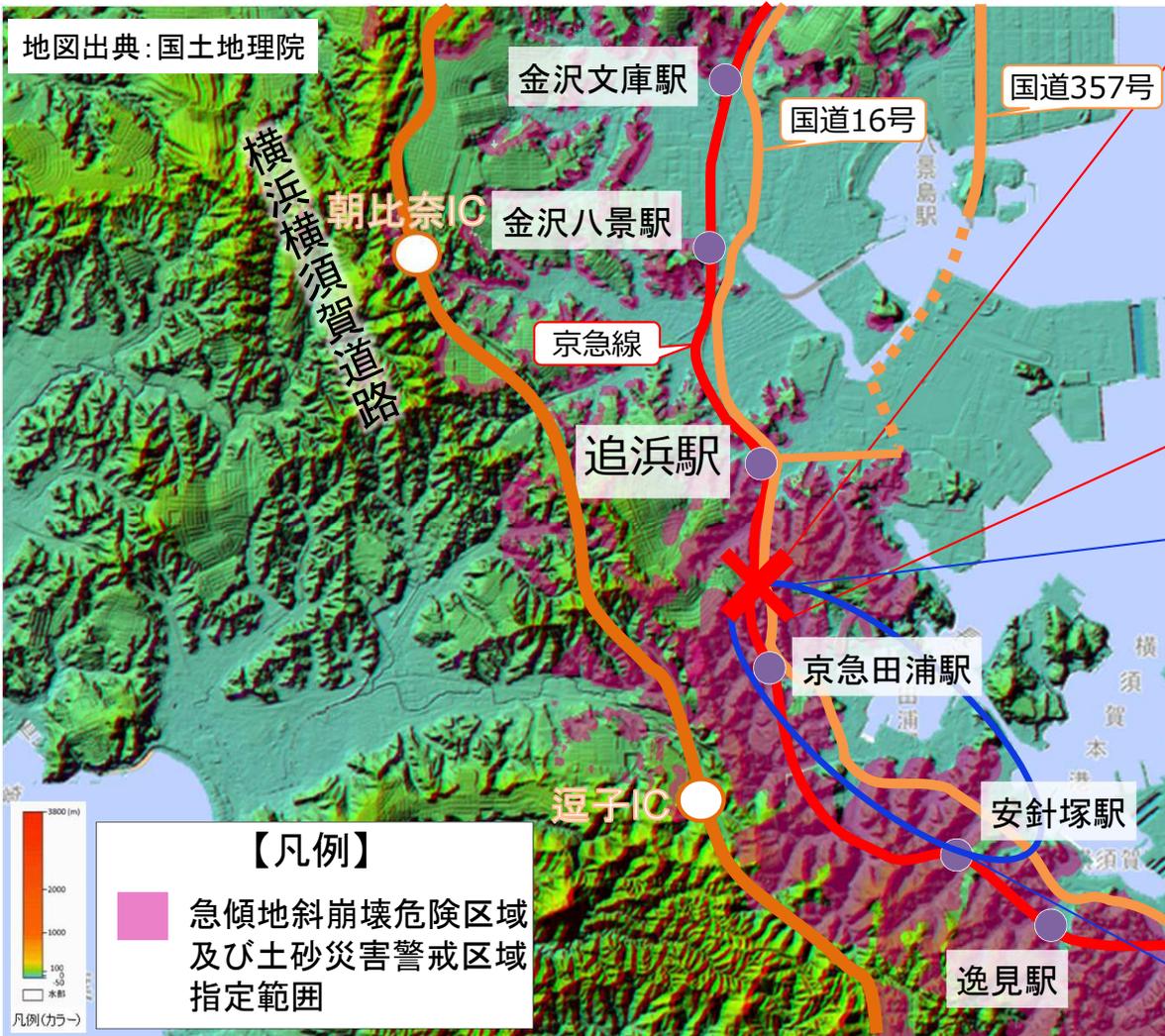


5. 追浜駅周辺に導入すべき防災機能

1. 追浜駅周辺で想定される災害

- 京急線・国道16号の追浜駅以南は急傾斜地が多く、以北に比べ災害発生リスクが高くなっています。
- 過去にも土砂崩れによる京急線運休等が発生したことも踏まえ、南北に並行する国道16号と京急線による相互ネットワークの補完が、地域交通の面だけでなく、広域交通の面でも重要となります。

■ 追浜駅周辺の地形状況



■ 2012年の土砂崩れによる京急線運休時の様子



■ 老朽化したトンネル改修事業（国道16号横須賀地区トンネル改修事業）

- 横須賀市内の国道16号には、供用から40年以上経過したトンネルが多数（16箇所中15箇所）存在し、老朽化が進行
※京急線のトンネル数は同区間で13箇所（追浜駅～横須賀中央駅間）
- 抜本的な対策の必要性が高い4トンネルを対象に、改修整備を行い交通の安全性の確保や円滑化を図るもの



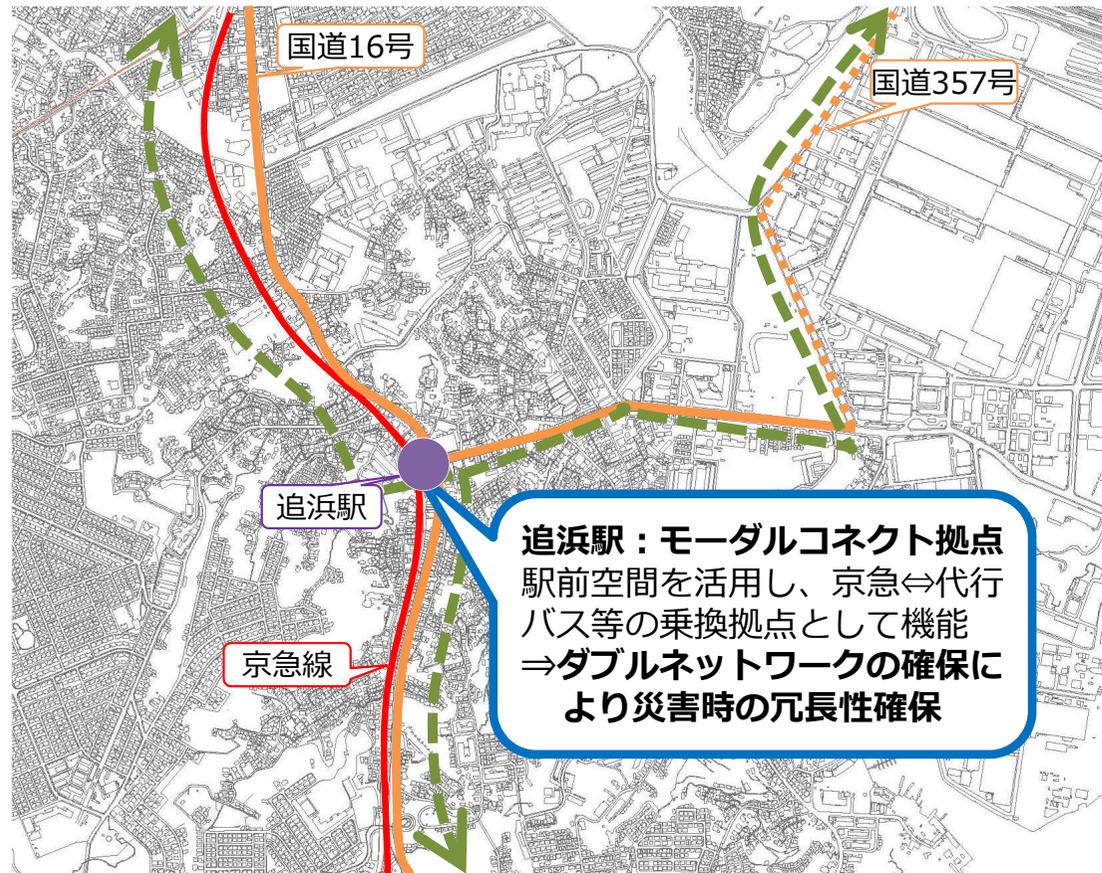
出典：横浜国道事務所HP（横須賀地区トンネル改修）

2. 追浜駅に求められる防災機能

2.1 鉄道不通時の代替交通の確保

- 追浜駅は、京急線と並行・直交する広域道路網の接点に立地することから、災害により鉄道・道路の双方が不通となった場合に対応した、代行バスの発着拠点としての機能が求められます。
- 上記を踏まえ、駅前空間を活用した災害時乗換拠点としての機能確保についても検討を進めます。

■京急線と道路網による災害時の冗長性確保イメージ



地図出典：国土地理院 数値情報地図



画像提供：呉工業高等専門学校 神田研究室

図 代行バス(JR呉線)

出典：
呉駅交通ターミナル整備事業検討会資料



図 代行バス(くま川鉄道 人吉温泉駅の状況)

出典：国交省HP

2. 追浜駅に求められる防災機能

2.2 災害時の情報拠点

○追浜駅周辺の各避難地・避難所への安全・安心な避難行動等を支援するため、災害発生直後や復旧段階等における情報拠点としての機能導入を検討します。

〔交通結節点に導入する機能の災害時の活用例〕

- ・交通結節点の災害時交通マネジメント拠点としての活用（前ページにて詳述）
- ・鉄道・バス等の乗り継ぎ案内情報板や、Wi-Fiを活用した情報提供
- ・EV車両の災害時の非常用電源としての活用
- ・次世代モビリティを活用した避難場所までの移動支援

災害時の避難者の行動イメージ

Before

After

安心

- ・どこに行けばよいかわからず、とにかく無事を祈り自宅で待機

- ・追浜駅に行けば、リアルタイムな被災状況や避難場所の情報が確実に入手できるから安心

情報

- ・リアルタイムな被災状況や避難場所の情報が手に入らない
- ・携帯電話もなかなか通じず、家族等との連絡が取れにくい

- ・追浜駅に行けば、知り合いや地域の人にも落ち合え、安心できる
- ・Wi-Fiも利用できるため、インターネットでの情報収集や家族等への連絡もスムーズ

充電

- ・携帯電話の充電がいつまで持つかわからず不安

- ・電気自動車を利用した携帯電話の充電ができ、安心して避難できる

避難

- ・避難場所まで遠く、また急な坂道もあるため、避難が大変

- ・次世代モビリティや自動運転車両を使って、避難ができるので、高齢者でも安心して避難ができる

■災害時の情報提供イメージ



■EV等を活用した携帯電話等の充電イメージ



出典：資源エネルギー庁ウェブサイト 3

(https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/johoteikyoxev_saigai.html)